

会 議 報 告 書

開催年月日	2008年7月6日(日) 10:00～14:00	
会議の名称	第5回 予防接種委員会	
開催場所	安保ホール 202号室 (愛知県名古屋市)	
出席者(敬称略)	永井崇雄、落合 仁、熊谷卓司、寺田喜平、宮崎千明、横田俊一郎、吉川哲史、藤岡雅司	
欠席者(敬称略)	田原卓浩	
会 計	支出 32,744円 (会議室使用料 21,944円+昼食代 10,800円)	
	収入 8,000円 (1,000円×8名分)	差引 24,744円
報告事項		
1	日本外来小児科学会役員会からの報告事項(藤岡)	決算(平成19年度分は総務部経費として処理)、平成20年度予算(会議費5万円、調査費10万円)
2	MRワクチン実施状況調査その後(藤岡)	日本小児科学会誌に分科会の委員会報告として掲載を依頼した。 外来小児科誌にはBCG全国調査と同様の様式で報告する。総会でも報告(横田)。
3	麻疹風疹全数報告の全国自治体実施状況調査について(落合)	前年と同じ方法(調査対象も同じ)で今年も実施する。 他科医師の認知度や法令化後の問題点等、新たな内容の調査については、感染研などの動きを見て改めて検討する。
4	厚生労働省等における動きについて(宮崎)	昨年8月に麻疹排除計画案を提言して以来中断していた「予防接種に関する検討会」(健康局結核感染症課)が7月中に再開予定である。①日本脳炎の積極的勧奨再開の時期と方法、②DT2期のDPTへの変更、③任意接種ワクチンの定期接種化等の問題が話し合われる予定。 「ワクチン産業ビジョン推進委員会」(医薬食品局血液対策課)は現在まで4回定期開催されている。ワーキンググループで国内外のワクチンの開発、導入に関する問題点の討議が行なわれ、「検討とりまとめ」が公開されている。今後の議論の進展にはワクチン施策を担当している結核感染症課との連携が必要である。 いずれにせよ国にすべてを任せていても何も始まらない。学会等を通じての基礎データづくりが必要。 麻疹対策では、都道府県の麻疹対策会議の設置状況は不明。6月までの接種状況が国でまとめられる予定。
協議事項		
1	DTaP追加接種臨床試験への参加について(永井)	プロトコルの概略説明(病院等10施設での効果・副反応調査、開業医等20施設での副反応調査) 8月2日の調査研究方法検討会にて議論し、8月29日の役員会にて了承を得るようにする。 厚生労働省も制度変更のための知見を必要としており、今後も同様の調査には積極的に協力する。
2	第18回年次集会準備状況について(吉川)	年次集会のコンセプト「外来小児科学のエビデンスを創ろう」に沿って準備を進めている。 予防接種委員会主催シンポジウムはメイン会場で実施。 シンポジウムへの参加者が多くなるようメーリングリスト等での広報を十分に行なうこと。
3	予防接種委員会主催シンポジウムの準備状況	参加者が予防接種に関する共通認識を持つことができ、地域での行動につながるよう配慮する。 発表順(藤岡、寺田、横田、宮崎、永井)にスライドを供覧し、内容等について意見交換を行なった。 ・具体的内容を提示し、ポイントを絞って発表する。 ・変更案等についてはメーリングリストで逐次ファイル提示し検討する。
4	次回開催日等について	新委員に西村直子、岡藤隆夫先生が推薦された(西村先生は未入会?ともに本人に確認する)。 郵送費、印刷費等、個人で負担している経費についても計上が望ましい。 次回開催日は検討できなかったため、改めてメーリングリストで検討する。